

## 俳句を通して世界の平和

有馬朗人会長

ただいまは、ファン＝ロンパイ大統領が大変すばらしい話をしてくださり、ありがとうございます。またファン＝ロンパイ大統領には心からもう一つお礼を申し上げなければならないことがあり、昨年1月に国際交流の人たちを連れて、ブリュッセルでシンポジウムをやりました。この国際俳句交流協会25周年のお祝いのシンポジウムをEUの会館でやらせていただきまして、また大統領からお話をいただいたことを心から感謝申し上げます。また今日は、EU（駐日）大使のブドウラ大使に大変お世話になりまして、このすばらしい会場をお借りできたことを心から御礼を申し上げます。

私はオランダとか、ベルギーとかフランスとか、そういうところにたくさん友人がいて、日本よりもそっちのほうが評判いいんです。（笑）特に最近は中国で評判がよくて、日本で評判が悪いんです。以前その友達に聞きますと、ベルギーというのはオランダ圏とフランス語圏があって、いろいろ難しい問題がある。ファン＝ロンパイさんは、そのときに、フランス圏とオランダ圏の融和を図る。常によく見て、両方のことをお聞きになって融和を図ってこられた。それが総理大臣になられた一つの理由であるということ伺いました。今日はファン＝ロンパイ先生に本当かどうか伺いたいところではありますが、そういう功績をもとにいたしまして、次はEUの融和を図ろう、そのために第1代の議長、大統領におなりになったと伺っております。

すばらしい・・・がありまして、そこで今度は第3段階にお入りになった。すなわち俳句を使って、東洋とヨーロッパの融和を図ろう。そういうことで、あしたは岸田大臣が直接、俳句大使として任命をなさるそうであります。私も本当に、一緒にその席にお邪魔したいんですが、招待いただいたんですが貧乏暇なしで（笑）、あした、私は浜松の大学で講義をしないといけない。ちょうど講義にぶつかりまして、残念ながらあしたその会に出られないことをお許しいただければ幸いです。

ともかくこういうすばらしいファン＝ロンパイ前大統領がここにお見えになりまして、先ほど俳句をどう考えるか、そういうことをヨーロッパの側の目でお話くださったことを心から感謝申し上げます。

さて俳句というものが、どうしてこういうふうの世界で受け入れられるようになったか。実は先ほどのお話の中でもおっしゃっていたキーポイントが二つあります。一つは短いということです。非常に短くて簡潔であって、そしてそこではっきりとクリアに物を表現するというをおっしゃっておられたのが第1点。それから自然との関係があるということをおっしゃった。こういう2点、それがやはり、世界的に俳句が認められるようになってきている一番大きな理由であろうと思っております。

事実、ファン＝ロンパイ大統領の俳句を拝見いたしますと……。日本語に訳されたのをお読みいたしましょう。「春の顔 運ぶりんごの花 白き」〔「White apple tree bringing earth spring white beginning」?〕。(ファイル1終了)

この俳句が大変好きでありまして、真っ白な花が咲いている。それが春を持ってくるんだという、こういう自然をうたっておられる。しかも簡潔にうたっておられることで、まさに先ほどお話しになった俳句というのは短くて、はっきりとしていること。自然をうたうこと。こういう2点をよくご理解になっておられる。

こういうふうにはヨーロッパの方が短い詩を書く。しかも自然をテーマにするということに、考えを進められるようになったのは、それほど長い歴史があるわけではありません。17世紀ごろからだと思います。せいぜい16世紀です。それまではヨーロッパでは自然を中心にした詩よりも、もっと長い、ギリシャ時代にホメロスの長い詩、あるいはダンテの神曲。これは1冊の本が一つの詩なんです。一編の詩といっても1冊の本になっている。ダンテの『神曲』というのは一つの詩です。そういう長い叙事詩や、それから神様をたたえる詩であるとか、人間の心をうたう詩が非常に多かったんですが、16～17世紀ごろから、自然をうたうロマンティズム、〔ひところ or 懐?〕に自然をうたうというふうなことが起こりました。それが現在随分進んで、先ほどの俳句の認識まで、俳句を評価するところまで続いたことをうれしく思っていました。

これは絵のほうでもそうでした、ギリシャの絵とかローマの絵とか、イタリーの絵、そういう絵を見ても、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵を見ても、自然が主題に描かれていることはありません。レオナルド・ダ・ヴィンチの私の大好きな絵の一つに「アナウンスエーション」

(Annunciation) というのがあるんですが、マリアがいて、天使ガブリエルがいる絵があって、その裏側の窓のところに自然が描かれている。背景に自然が描かれることはありますが、自然そのものが前面に出てくるのは非常に遅い。これは、それこそベルギー、オランダで16～17世紀ごろに自然の絵を描くということが出発になって、それ以後ゴッホが出てきたり、印象派が出てくるわけでありまして。

それに対してアジアのほうは、中国の絵でも日本の絵でも山水を中心として描く。あるいは自然そのもの、特に花、それも特に梅の花。こういうものを描く絵が東洋では非常に盛んであったのに対して、西洋でそういう自然を中心に描くというのは、今でこそ日本以上に西洋では自然を描くということが中心になっていますけれども、自然を描くというふうな文化が、ヨーロッパに出回るのは非常に新しいことですね。

逆に日本のほうは長い詩を書くということが、なかなかできなかった。中国も非常に少ない。そういうことで日本は明治以後、ヨーロッパの文化を取り入れて、ヨーロッパを学ぶ。特に学んだのが何かというと科学と技術。やっと日本も世界に科学技術が追いつくようになりました。こういうふうには現在は、世界がいろいろ融和している。その一つが俳句でありまして、俳句が世界に広がる。日本のほうは日本のほうで、西洋からさまざまな合理的な考え方、特に自然科学というものをこの150年学んできました。こうして人類の間にいろいろな垣根がなくなってきたということを、私は心から喜んでいます。

そこでこの俳句というものを使って、さらに人類がお互いに理解し合うようにしようではないかというのが、国際俳句交流協会の一つの考えであり、現在、俳句の3協会が協力して、いろんな事業を進めようとしております。その一つが、俳句を世界遺産にしていきたいということでありまして、この点にファン＝ロンパイ前大統領からのご支持をいただいたことを大変うれしく思っています。

なぜ俳句があるかということは、もちろん先ほど申し上げましたように短いことと、自然をうたうということ。これが世界的にごく最近起っていることであって、珍しい文学であるということが一つの理由でありましたが、もっと本質的に理由があります。日本人の英語は俳句で「うまくなるん？」です。(笑) どうしてか。日本人が長い詩を英語で書こうといっても、ドイツ語であろうと、オランダ語であ

ろうと、フランス語であろうと書けない。だけでも俳句ぐらい短い単語を三つ並べておいて、その次に四つ、その次三つぐらい並べて。(笑)全部〔通れば?〕書けるんです。100ぐらい英語の単語を覚えていますよね。(笑) その100で十分やれるんです。

そういう点で、日本人も英語俳句をやれば英語がうまくなるんです。フランス語俳句をやればフランス語がうまくなる。オランダ語でやればオランダ語がうまくなる。こういうふうに短いことがすばらしいことで、ダンテの『神曲』のような長いものはとても書けないけれども、どこの国の方でも俳句なら、短いものなら書けるし、読めるし、覚えることができる。そういう非常にすばらしい性格を俳句は持っているし、あえて言えば短歌も持っている。あるいは韓国のシジョ、「時調」と書きますがシジョも持っている。

そこで私の本当の気持ちは、中国の漢詩、韓国の時調、日本の俳句と短歌、そういうものを全て集めて世界の短詩の文化遺産をつくりたい。これは単に日本が俳句ということで短いことを誇るだけでなく、アジアの詩、特に中国、韓国、日本に共通して短い詩を書くという文化を持っているので、この文化をひとつ認めていただき、そして東洋の文化を世界遺産の一つとして認めていただいて、その漢詩を書き、時調を書き、俳句を書き、短歌を書くことによってお互いに理解し合って平和を生み出そうではないか。

そしてまたそれを英語で書いていただき、ロシア語で書いていただき、フランス語で、オランダ語で、というふうに世界の各国で短い俳句を書いていただく。各国の方々、フランスにしても英国にしても、皆さんそんなに長い詩をお書きになる方はおられないだろうけども、さっき言ったように十も単語を知っていれば書けるこの俳句という文学で、お互いに理解し合うという努力をしていただきたい。

というわけで最後になりますけれども、私の結論を申しますと、俳句を世界遺産にするということの一つの契機として、世界中の方が俳句のような短詩を書いてお互いに見せ合う。自分の心をそれで見せ合いながら、世界中の人が仲よく、平和を築くということの契機になればよいと思っています。世界を俳句で平和にしようではありませんか。よろしく願いいたします。(拍手)

(終了)